



子どもテラスと工作室が隣り合うことで、子どもたちがものづくりに触れやすい環境をつくる。



共用廊下を大小の連続する土間空間とすることで、各部屋の活動が土間へと溢れる。



調理実習室は土間ホールに連続。
連携したレセプションパーティも。



縁側が屋内外をつなぎ、
大きな家のようなくつろいだ居場所をつくる。



多目的ホールの目の前には蕎麦畑が広がる。
建具開け土間テラスと一体に。



部屋をつなぐ廊下の途中にはたくさんの坪庭が。
小さな居場所となる。

(a) 町民の持つ愛着を感じることができ、多賀ならではの魅力と誇りを再認識出来る施設整備

まちの方々と、ともに場所をつくるプロセス

新しく出来る公民館をまちづくりの拠点と捉え、まちの未来を共にみなさんと考えます。
場所の使われ方を考えるワークショップや、魅力的な広報物を通して設計・建設のプロセスを広くまちの方々に伝え、公民館の完成をわくわく楽しみに待つ機運を高めます。



プロセスを伝える壁新聞例



中学生とまちの未来を考える



子どもたちからまちの先輩にインタビュー



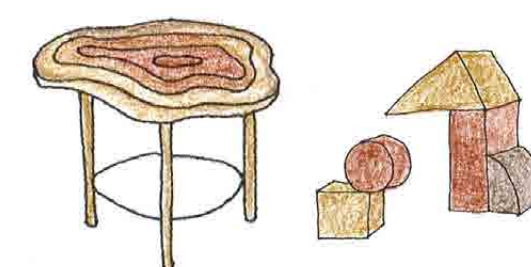
小学生とのワークショップ



子育て層からのヒアリング

多賀町の木材を使った新しいプロダクトを考える

デザイナーを招聘するワークショップにより、杉の子作業所のメンバーと共に多賀町の木材（廃材）をつかった新しいプロダクトをつくることを提案します。



木材を使ったプロダクトのイメージ



奈良の福祉施設「たんぼぼの家」にて、吉野杉の廃材を使い障がいを持つメンバーとデザイナーのワークショップによって開発されたブックエンド。

